

事業所名	社会福祉法人保健福祉の会 パーチェ梅小路		支援プログラム（参考様式）		作成日	令和6年	10月	18日
法人（事業所）理念	<p>1、発達心配があったり、障害が疑われる子どもたち、障害が発見された子どもたちにとって、成長や発達を促す場として療育が保障されることを目指します。</p> <p>2、子どもを育てている保護者が、一人で悩むこと無いう育児のどんな悩みでも出せる場になること、そして「楽しい子育て」を共有できることを目指します。</p> <p>3、子どもたちは仲間の中での育ちあいを大切にします。親とスタッフは子どもたちから学び、スタッフは親の子育てから学び、共に育ちあう場になることを目指します。</p> <p>4、スタッフは子どもの発達を促す療育の実践を発展させることを目指します。</p> <p>5、医療、福祉、保育、教育などの関係諸機関と連携をとり、子どもや家庭が安心して暮らせる地域づくりを目指します。</p>							
支援方針	<p>1、みんなと思いきり遊ぶなかで、興味や関心を広げ「もっとやりたい」「もっと知りたい」という願いを豊かにします。</p> <p>2、自分の思いや、要求をもち、自分なりの表現方法で人に伝える力を育てます。</p> <p>3、人への信頼感を育て、人と関わる気持ちを豊かに育てます。</p> <p>4、自分が大好きと思える気持ちや、自信をもてる子どもを育てます。</p> <p>（保護者の方へ）1、子どもとの遊びを通して、親子で遊ぶ楽しさを体験します。2、子どもとの遊びや学習などを通して、子どもの理解を深めます。 3、子育ての悩みを話し合い、保護者同士の交流を深めます。</p>							
営業時間	9時	0分	17時	0分	送迎実施の有無	あり	なし	
支 援 内 容								
本人支援	健康・生活	保護者にお家での様子（食事、排泄、睡眠、衣服の着脱など）、基本的な生活での悩み等を聞き、保育園や幼稚園、療育での子どもの姿と照らし合わせながら、子どもに今のような関わりや支援が必要か一緒に考えます。健康状態を観察し、小さなサインでも心身の異変に気付けるようにしています。「自分でできた」と感じ、「もっと自分でやってみよう」と思え、毎日の生活を、本人が気持ちよく過ごせるように支援します。						
	運動・感覚	「遊び」を通して、身体や手指を動かす”楽しさ”を実感できることを大切にします。室内では、大型遊具やエアートランポリン、吊り遊具などに取り組み、姿勢保持や動作の幅を広げていきます。夏にはプール活動に取り組み、全身の感覚を豊かにしていきます。また、近隣の公園での遊具等での遊びや園バスを使った山登り（船岡山や双ヶ岡）などにも取り組みます。手指の活動では、素材遊び（粘土、スライム、寒天など）や制作活動、クッキングなどを通して、手指の感覚を豊かにしたり、道具を操作する経験を積んでいきます。						
	認知・行動	子どもの興味のある事、好きな遊びを通して、子ども自身が「わかる」と感じられるよう、発達や特性に配慮して活動を用意しています。必要に応じて活動を予告したり、見通しを持ちやすくするよう、モデルや具体的なものを見せるなど、その子が安心できる方法を考え支援をします。また、感覚過敏を持つ子どもに対しては、空間や素材など安心できる環境を用意しています。						
	言語コミュニケーション	子ども一人ひとりの言葉だけでなく、視線や表情、行動、発声など全ての表現方法をキャッチしていきます。言葉になりきらない思いは「〇〇だったんだよね」と職員が代弁し「思いが伝わった」と感じられるように支援します。自分の気持ちを伝えたいという要求が豊かになることを大切にします。職員は、子どもの思いを受けとめたり、子ども同士の間には入り、関係を築くことで、コミュニケーションの心地よさを感じられるよう支援しています。						
	人間関係社会性	年齢や発達の様子に合わせて、集団療育を実施しています。（5～8名程度）職員が子どもの思いを受けとめ、安心できる大人との関係づくりを大事にします。困った時や不安な時には大人に助けを求めたり、「この先生となら〜」と支えにできる力を大事にします。子ども同士の関係では、「お友達と一緒に遊べるのいいね」と感じられるような「遊び」を設定しています。見たて遊びやつもり遊び、ごっこ遊びなどの表象遊びや、ルールのある遊び（協同遊び）を楽しむ中で、社会性の発達を支援します。						
家族支援	<ul style="list-style-type: none"> 療育終了時には活動の様子について保護者に個別もしくは集団でフィードバックを行います。活動のねらいや子どもの発達について話し合ったり、保護者の相談を受ける時間としています。また、月1回の「親グループ」では、子どもの発達や特性、子育てについてなどテーマを設定し、子ども理解を深めています。グループワークから保護者同士の学び合いやピアカウンセリングの要素も作られるよう、職員がサポートしています。 保護者の希望に応じて、K式発達検査を実施します。検査報告では、療育での様子も加えて子どもの発達や、支援方法についてフィードバックします。 			移行支援		<p>年長児については、就学に向けて個別に相談を受けています。就学先や学童、放課後デイなど地域や子どもの状態に応じて、安心して移行できるよう情報提供をしています。また、併設している相談支援事業所との連携や、学校等への引継ぎ等を行っています。</p>		
地域支援・地域連携	<ul style="list-style-type: none"> 並行通園先との連携を行っています。それぞれの場所での子どもの姿を共有し、発達について理解を深めています。普段の生活の場での様子を知り、療育実践にも活かしています。また並行通園先から子ども理解や保育等について相談を受けた際には、発達や特性を考慮した支援方法について提案をしています。 毎月発行する「パーチェ梅小路だより」を保護者を通じて並行通園先にも配布しています。地域に向けては「友の会だより」を通じて、2カ月に一度、子育てQ&Aを掲載して、情報を発信しています。 「下京ネットワーク」や「中部自立支援協議会」に参画しています。 			職員の質の向上		<ul style="list-style-type: none"> 日々の業務の中でPDCAサイクルを意識し、療育実践後の記録の際は、職員全体で振り返り次の活動内容について検討しています。 月1回の職員会議では、発達や特性、子どもや子育てについての社会情勢等について学習をしています。 保護者の希望に応じて発達検査を実施し、検査報告を職員で共有し、療育内容に反映できる様努めています。 各種研修会にも積極的に参加し、実践報告も行ってきます。法人全体でも研修を行っており、年3回全体の研修に参加しています。 		
主な行事等	家族懇談会 支援者向け学習会 クリスマス会。発達の学習会、保育園や幼稚園等の進路選択や就学に向けての学習会等 随時実施。 パーチェ梅小路 HP http://hoken-fukushi.or.jp/dainipace.html							